



堀場製作所OB会

# 会報

通巻36号

発行日 平成26年7月31日

発行者 堀場製作所OB会

酒井 俊英

編集者 酒井 俊英

- ◆第18期定例幹事会
- ◆第18期東京支部定例会
- ◆ボランティア部会
  - ・京都マラソン・ボランティア
  - ・桂川クリーン大作戦
  - ・鴨川を美しくする会
    - ・鴨川茶店
    - ・鴨川クリーンハイク
- ◆キャリア部会
  - ・KSUVU（京都ソニアハンサークラブ 連合会）
  - ・京モノレンジャー
- ◆クラブ活動報告
  - ・山遊会
  - ・カメラクラブ
  - ・釣りクラブ
  - ・東京支部ゴルフクラブ
  - ・囲碁クラブ
- ◆OB会行事報告
  - ・春の懇親会……………がんど高瀬川二条苑
  - ・レジャー例会……………近江八幡水郷巡り
  - ・研修会……………京都新聞社見学会
- ◆東京支部一泊旅行
- ◆会員寄稿文
  - ・京都の知ってるつもり  
「京都の夏 新鮮な海魚は  
豊しかなかった」……………海野興一郎
  - ・ボランティア考（2）……………梶並 強平
  - ・ボケ防止のために……………梶並 強平
  - ・平成25年度京都府スポーツ大賞  
受賞報告……………村瀬 潤
- ◆OB会だより
  - ・堀場OB会ホームページ紹介
  - ・新入会員紹介
  - ・訃報
  - ・年間行事計画について
  - ・会報、ホームページへの寄稿要領について
  - ・OB会入会手続きについて
- ◆ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト
- ◆編集後記



世界文化遺産 平等院の改修完了  
平成24年から1年半かけて改修。創建時の材料、丹土（につち）で塗り直し、瓦も光沢を落とし、屋根上の一對の鳳凰や、翼廊の「露盤宝珠（ろばんほうじゅ）」、扉の釘隠しなども創建時の金色で、華やかな雰囲気が見事に再現されました。平等院は、藤原氏ゆかりの寺院（1052年～）で、17か所の「古都京都の文化財」の一つとして1994年にユネスコ世界遺産に登録されています。本尊は阿弥陀如来、開基は藤原頼通、開山は明尊。（川越 幹記）

## 第18期定例幹事会概況

第3回：3月4日（火）第4回：5月13日（金）

第5回：7月1日（火）の各議事録から要約

### 1. ボランティア部会

新たなボランティア活動テーマの報告（別途報告記事有り）

#### ①京都マラソン・ボランティア活動報告

2/16 マラソン参加者16,000名。ボランティア8,000名の大イベント。OB会ボランティア参加者9名。7:40～11:00無事終了。来年も参加を予定する。

#### ②桂川クリーン大作戦活動報告

2/23 OB会としては、初参加。OB会参加者5名。今年は比較的好天に恵まれた。来年も継続の予定。

### 2. キャリア部会活動状況及び今後

H26年度の活動は6月4日からの準備作業から始まり、6月に2回の工作授業を実施した。今年は昨年より20%増の700人規模に膨らむ予定。

### 3. 退職者説明会及び65歳退職者説明会

2/4に退職者説明会を行った。それによる参加者は1名。65歳退職者説明会にも説明会を行ない、加入を呼掛けた。こちらは、15名中、入会済は3名。入会希望者10名。近年、60歳以後も嘱託再雇用が有るため、定年の意識が65歳以降になって来ていると推測される。今後、65歳退職者説明会にもOB会の説明時間を取ってもらう様、会社へ申し入れを行った。

### 4. 新入会員の初年度会費についての検討

新入会員の初年度会費、入会費は変更せず、会費入会後の1回めの懇親会は、無料とすることで、幹事会として決定した。懇親会の費用は負担増になるが、新入会員の増加を期待する。

### 5. メール利用の促進方法について

今後、段階的に、行事案内や連絡は移行期間を持ちながら、メール・ホームページを通信手段とする方向にシフトして行く事とした。郵送・FAXとの併行期間については、結論は出なかったが、1年から1年半位を目処に、議論を詰めていく事とした。メールの無い人は20名程

度。廉価なノートパソコンを斡旋し、使い方の講習会を行う等、具体的な取組を考えたい。

（会員の方の御意見をお待ちしております）

### 6. 鴨川を美しくする会からの連絡

8月の鴨川納涼は、当初、去年の事故が原因で、中止の予定であったが、最終的に実施する連絡が有り復活する事が報告された。

### 7. 各種行事報告

#### ①春の懇親会報告(4月5日)

季節がお花見と重なり、場所が手狭であった以外は、全体的に好評であった。

#### ②研修会(5月30日)「京都新聞社見学」報告

18名が参加。最新式新聞印刷のシステムに感心し、堀場製作所OB会の皆さん来訪と書かれた「見学記念号」が印刷された。また、参加者の住んでいる地域版には、見学が有った事の記事が掲載され、いい思い出になった。

#### ③レジャー例会(6月20日)

「近江八幡 水郷巡り」16名が参加。手漕ぎ屋形船2艘に分乗し、4人1組で近江牛のすき焼を囲み、大いに堪能する事が出来た。曇天が幸いして湖面の風が心地良かった。

### 8. 今後の行事予定

- ・夏の懇親会計画(8月30日(土))  
京都第二タワーホテル。午後6時開始。  
特に変更は無し。40人程度を予定。

### 9. その他

#### ①会報誌第36号計画(酒井)

- ・7月中に印刷を行ない、発行は7月末を予定。発送は8月5日を予定。

#### ②HOVCの今後について提案・ホームページ改善

- ・酒井からの提案「HOVC=HORIBA OB VENTURE CLUB=HORIBA OB VOLUNTEER & CAREERということで、KSVUから見た名前と、OB会での名前を同じものとしてHOVC部会と言う名前で、一本化したい。」について、幹事からは異論はなく、了解された。それに対応した組織図を、KSVUのHOVCのホームページを見直す事となった。

#### ③新入会員状況(笠川)

今年度、今日現在10名が加入された。

今後の積極的な活動参加を期待したい。

(酒井 俊英 記)

## 第18期東京支部定例会

### 第2回 定例会

東京支部は平成26年1月17日（金）13:00～14:45、TS0会議室にて第2回定例会を開催しました。谷口幹事より19期年間行事計画で年6回の行事を年4回の活動にしたいと説明し了承された。11月7日の本部総会報告、11月の幹事会の報告がされた。さらに18期の東京支部体制の説明があり、18期より新井副幹事が加わり新体制で進めてきたが都合により長期継続できず、また海野副幹事が7月に京都へ移住されるため副幹事を玉置氏にお願いしたいと申し入れ、次回、回答を貰うことにした。続いて北村氏が3月21日から入会される。支部ゴルフクラブの第2回コンペがTS0と一緒に鷹ゴルフクラブで開催。4月5日の京都の懇親会に谷口氏、海野氏が出席する予定。海野副幹事より配布資料に基づき恒例の一泊懇親会旅行（5/30～5/31伊豆修善寺方面ゴルフ付）案の詳細説明がされた承された。最後に佐藤常務取締役をお迎えし、今や恒例となった、HORの現況を「“はかる”技術で社会に貢献」IR資料に基づき、5つの事業セグメントの

業績、気になる株価の推移、配当金等トピックスと最新情報を報告していただき、堀場へ思いを新たにしました。

次回第3回支部定例会（4月25日）には本部より酒井新代表幹事にご出席いただき開催予定との報告がされた。以上の会議後懇親会場をTS0付近の新しくできた御茶ノ水ソラシティ内の「きやり」に移して、新年会を兼ね懇親会を開催し、その後喫茶会で散会となった。（新井 章生 記）

出席者（敬称略）

佐藤常務、寺西、大志万、草鹿、土屋、玉置、谷口、龍、大道寺、海野、新井



## ボランティア部会

### 京都マラソン・ボランティア参加報告

寒さ厳しい2月16日0B会の有志（周田、池田、竹内、中村十、宇野、森山、中村正、笠川、村田）の9名がボランティアとして参加しました。担当場所は松尾橋の東詰め付近で、西京極競技場からおおよそ4Km付近でした。支給された帽子、ネックウォーマー、ウインドブレーカーで、寒さ対策をして、交通規制から始めました。白バイに先導された車いすの先頭ランナーが目の前を過ぎると沿道の観客と一体になって思わず大声で応援を送っていました。



その後、脇目も振らず通り過ぎた先頭集団の後からマラソンを楽しむ一般ランナーが大挙して押し寄せてきました。  
みんな本当に楽しそうで手を差し出すと笑顔でハイタッチしてくれ、こちらまで笑顔になりました。

へろへろになった最後のランナーが、救護バス、役員バスを引き連れて通過後、規制解除の後片づけを済ませて解散となりました。  
ランナーからもらった熱気で寒さを忘れるボランティアでした。

(笠川 重美 記)

## 桂川クリーン大作戦・参加報告

平成26年2月23日(日)、「桂川クリーン大作戦」に参加しました。

「桂川クリーン大作戦」は、桂川流域クリーンネットワークが主催で国土交通省淀川河川事務所、淀川管内河川レンジャーが支援する桂川流域をゴミのない「綺麗な桂川」にしていこうということが目的で実施された活動です。

ホリバOB会は、松尾橋右岸から少し上流までが担当で、このエリアには全体で約250名が参加し、OB会からは梶並、宮本、中村(正)、森山、中村(十)の5名が参加しました。

当日の天候は晴れ。朝方こそ少し寒かったものの天気も良く、よく頑張ったこともあり大変気持ちの良い掃除日和?になりました。ゴミの種類で一番多いのはレジ袋、次にペットボトルや空き缶で靴や傘などいろいろなものが落ちていました。川や河原には水鳥や野鳥の姿は、ほとんど見られませんで



したが、河原のあちこちに雑草が、力強く芽吹いており、野バラやノビル、菜の花なども芽を伸ばし春の息吹を感じました。クリーン大作戦が終わった後は、参加した5人で近くのお店に行き田舎ぜんざいを頂きました。こんがり焼かれた大きなお餅の入った大ぶりのぜんざいで大変美味しかったです。来年も是非このぜんざいを食べたいと思います。

(中村 十規人 記)

## 鴨川を美しくする会

## 鴨川茶店

今年は、天気心配があったからでしょうか？見物客が少なく感じました。特に、タクシーでの見物客がほとんどいなく、降りる人も、客待ちのタクシーも見かけませんでした。一方、名古屋方面からのバスを筆頭に、「御所の一般公開と京都名桜の旅」といったツアーバスが、植物園に入りきれないほど並んでいました。9時半には配置についていた方が良いと思われれますから集合時間はもう少し早めた方が良い



かと思います。既に駐車していて、遅れるとそのまま置き続けられる事になるかも知れません。

9時半に止めてあった車は、10時過ぎに無くなりました。また、今年はその場所で車上荒らしがあったので、警官が現場検証等に昼ごろまでかかっていました。

(石黒 英憲 記)



## 鴨川を美しくする会 鴨川クリーンハイク

6月1日(日)森山晶成、石黒英憲、村瀬潤の3名は、鴨川を美しくする会主催の鴨川クリーンハイクに参加しました。

当日は、京都が今年初めて酷暑日を記録した猛暑となりました。前日も34℃を記録し、主催者からは、ゴミ拾いに熱中するあまり熱中症にならないようにと、開始前のあいさつで何度も注意がされた後、開始です。一般参加者が鴨川右岸を担当し、我々を含む鴨川を美しくする会員

ペーン(AQUA SOCIAL FES)の一環で協力参加し、スカイブルーで統一した手袋やタオル、ベストを無料配布すると共に、役員として大勢が参加しました。ゴールの丸太町橋には、アクアの実車も展示されていて、一見するとトヨタ自動車のクリーンハイクの様な感じでした。

2つ目は、平成23年に設立された京の川の恵みを活かす会から、天然鮎の遡上を復活させる魚道の設置活動の紹介が、丸太町橋下流落差工に設置された箱型魚道の前でありました。鴨川は、河川改修で落差の大きな堰が設置され、天然鮎が遡上できない状況との事。

八瀬の鮎は、琵琶湖から稚魚を放流しているそうです。鮎の友釣りは京都の八瀬が発祥の地との事で、世界に類の無い文化でもある友釣り発祥の地の天然鮎復活のボランティアを募集されています。

3つ目は、京都のダイビングクラブがウェットスーツを着用し、川の中のゴミ拾いを実施しました。川の中のゴミは手に負えなかったのです



が左岸を担当しました。

ゴミの方は、目立つ様な大きなゴミは殆ど無く、たばこの吸い殻とコンビニ弁当の残骸とお菓子の包み紙が大部分です。それでもゴールの丸太町橋に着く頃にはゴミ袋が一杯になり、定期的な清掃活動が必要だと感じました。

今回は、新機軸が4つありました。

1つ目は、トヨタ自動車があくアの販促キャン

が、これで川岸も川の中もきれになります。

4つ目は、昭和10年6月の鴨川大洪水の写真パネルが、丸太町橋のゴールに展示されていました。治水が未だ不十分だった時代の大水害で、鴨川に架かる橋の殆どが流され、悲惨な惨状です。治水をすると共に、天然鮎も復活させる取り組みを考えさせる1日でした。(村瀬 潤 記)

### KSVU(京都シニアベンチャークラブ連合会)

ーNPO法人京都シニアベンチャークラブ

連合会の活動状況 (平成26年度)ー

今年度の総会がASTEM10階の会議室で去る5月20日(火)16:00から行われました。平成25年度の事業報告、収支報告と平成26年度の事業計画(案)、予算計画(案)が承認されました。

また、7月22日(火)には第2回の幹事会が開催され、平成26年度の現状が報告されました。それらについて今回、活動計画と状況について報告致します。

＜平成26年度のKSVU事業活動計画＞

#### 1. 受託事業の項目と状況

##### ◆【企業OB人材の活用に関する企画運営事業】

この事業は京都市からASTEM経由で委託されている事業で、京都市を中心とした中小企業からの人材支援の要望を受付、KSVUの人材データベースに登録された中から、マッチングする人を探し、中小企業の成長・発展を支援する事業。今年度も7月18日現在、9社からの相談を受付。4名のマッチング支援と、調整中1件が有る。現在、58名が登録されている。随時、新規応募を受け付けている。

##### ◆【省エネ研究会事業】

京都産業エコエネルギー推進機構(京都府・市共同機構)の省エネ・節電診断事業について、京都市の中小企業社の省エネ・節電診断事業の委託を受けた。今年度は、現時点で7件の診断済。計画中等含めて合計で30件を予定されている。省エネ研究会登録メンバー13名。(内HOVC1名)

##### ◆【京都府エネルギー管理企画推進者委託事業】

京都府の研修会で、エネルギー使用の合理化等の講義を年2回行う。有資格者が昨年参加されたので、受託が出来た。

##### ◆【琉球大学発技術シーズの共同開発マッチング事業】

沖縄の未利用生物資源等を用いた創薬や、食品など、新たな製品開発に繋ぐ取組を行う。今年度は、琉球大学で選定された未利用生物資源4種(宮古紅イモ等)を京都の企業での商品化マッチングを推進する。8月末には公募内容を決定し、9月より事業を開始する予定

##### ◆【平成26年度震災復興都市間連携販路開拓支援事業】

仙台地域の中小企業が中信ビジネスフェア

と他2つを含む3展示会に域内企業と共同出展する。8つの参画支援都市(京都・札幌・さいたま・川崎・神戸・堺・名古屋・北九州)のコーディネーターが連携し、販路開拓等のビジネスマッチングを実施して、支援する。京都では10月の中信ビジネスフェアで支援が行われる予定。

##### ◆【平成26年度モノづくりの殿堂・工房学習】

新たに積水化学が「夢を守る化学の力」というプログラムを提供された。合わせガラスの中間膜についての特長を体験するもの。また、ワコールも参加され、「かたちをつくる」と題して、ぬいぐるみのシャツを製作する。特にミシン4台を持ち込み、女性のOBも参加しての新機軸を打ち出した。

○生き方探究館京ものレンジャー活動は平成25年度は118校、実施回数112回、参加児童数は7,251名、京ものレンジャーの延参加数は883名であった。その内HOVCの活動については、登録者数24名でトップだが、活動人数では10名で、トップの島津、オムロン、積水化学、京セラに次ぐ5番目で、全体の8.7%。本格実施5年目となる今年度は実施校(予定)142校と20%の増加で、全学校数(166校)の84%が実施することになる。各社のテーマ毎の希望順では堀場は3番目に高い人気(48校)がある。今年度も、HOVCの更なる活躍が期待されている。

#### 2. 今年度のKSVUの体制

KSVUの活動が発展し、規模が拡大する事業に対応して、経理事務の専門家を1名。省エネ事業での報告書の纏め等、専任のエキスパートを1名。計2名を雇用した。(6月1日付)

#### 3. 見学会・講演会セミナー

##### ◆講演会について

今年度、以下に記すように2回行われた。今後も、企画される見込み。

①6月18日『親の相続・自分の相続課題と対策』KSVU/XOC共催 土江田 雅史氏

②6月27日『大阪の地盤沈下は止まるか』

KSVU/KSVC共催 日経大阪編集局 竹田 忍

##### ◆見学

昨年度、ロームの工場見学では44名の参加であった。今年度は、現在、計画・調整中。追って発表して行く予定。

今後とも、堀場OB会キャリア一部会・KSVUへの積極的参加をお願いします。

(酒井 俊英 記)

## 京モノレンジャー

平成26年3月4日(火)京都府庁前にある「京都学びの街生き方探究館」にて、京都モノづくりの殿堂における工房学習今年度最後のボランティア活動に7人で参加しました。



今日の参加者は、近くの小学校から参加の86名ですが、広い教室も一杯になりました。我々モノレンジャーも大忙しでしたが、特に今回の指導は、同館の二宮先生が自らかつて出て頂き、小学生達の心情を察したユーモア溢れる教

え方は、さすが教育のプロと我々は舌を巻いた次第でした。堀場広報担当と堀場OB会とが連携して、今年度提供した教材は「世界で一つの温度計」で、小学4年生にとって大変作り易いものです。各自の手作りの温度計で、電子部品やセンサーの働きをリアルに学び、作る喜びを味わい、作品を大事そうに持って帰りました。平成25年度は、昨年5月14日から今年3月4日まで延べ584人の生徒を教えたことになり、その間京都市教育委員会から表彰(既報)を受けたことも込み、一昨年のクレームを見事に挽回出来、大変充実した年度と言えるでしょう。この工房学習は年々評判が上がり、来年度は863校と今年より20%増となる予定で我々もさらに忙しくなりますので、ボランティア部員のみならず参加して頂ける方は、是非とも手を挙げていただきたいと思えます。尚、帰りの車の窓から、たまたま今日参加した可愛い小学生の帰校の長い列を横目で見ながら、これからの日本を背負ってくれよと心の中で祈った次第でした。

参加者(敬称略)

霞上かおり(CO)、森山 晶成、中村 正博、  
石黒 英憲、秋山 重之、村瀬 潤、川越 幹  
(川越 幹 記)

## クラブ活動報告

### 山遊会報告

—第33回 例会—

年月日:平成26年4月12日(土) 晴

行 先:京都1周トレイル(京北コース)、  
黒尾山(509.4m)、周山城址

参加者:下川 和子、下川 博司、倉原 政治、  
中村 正博、宇野久仁男

4月はそれぞれに行事が重なり結局5名での山行となった。JRバス周山行京都駅発午前7時50分に乗り合わせ、高雄では榎尾山の満開のミツバツツジの群生を車窓から眺め、9時15分新設駅の細野口で下車、トレイルコースの細野(標識1)に向かう。9時25分出発、今回は逆回りだ。標識92から林道に入り、ひと山越えて10時35分魚ヶ淵(標識79)へ降りた。上桂川に架かる吊橋と桜の名所で、こちらも満開の桜に三脚を構えるカメラマンや写生のグループで賑わってい

た。われわれも記念写真を1枚撮り、車道を柏原(標識75)まで歩き、11時15分下谷林道の上りに取り付いた。昨秋の18号台風の影響か、豪雨に洗われた荒れた道を進み、標識71-2からサブコースをとり黒尾山を目指す。以前はかすかなふみ跡があったが、岩と木立を頼りに這うよ



ように登り、外界から聞こえる正午のサイレンと同時に山頂（標識S1）に着いた。恒例の記念撮影をすませ、木間からみえる地蔵山と竜ヶ岳を眺めながら昼食とする。12時40分出発、尾根を少し歩き急坂を下って黒尾林道にでた。周山城址へ向かう道に、野生種であろうか沈丁花が群生しており、小ぶりの白い花を咲かせ、あたりにかぐわしい匂いを漂わせていた。小姓丸の見事な石垣や井戸跡を見ながら13時17分本丸跡（標識S6）に到着。周山城は1579年（天正7年）丹

波平定を命ぜられた明智光秀が築城した山城で、二ノ丸跡、馬場跡を通り13時40分麓の林道（標識S9）に出た。予定したより早く下山でき、周山発14時10分のバスに乗るべく道を急ぐ。14時少し前にバス停に着き、待っていたバスに乗り込む。地元住民待望の栗尾トンネルを通り、再びミツバツツジに感嘆、京都は何処も春爛漫である。福王子バス停車前から渋滞で動かなくなったが、それぞれ無事に帰宅した。

（下川 博司 記）

—第34回 例会—

年 月 日平成26年5月16日（金） 晴

行 先 大和葛城山（959.2m）

参加者:池田 俊明、下川 和子、下川 博司、  
高橋 義治、丸山 博、中村 正博、  
宇野久仁男、山岸 豊

昨夜までの雨も上がり、今朝方は少し肌寒さを感じる晴天に恵まれた。近鉄京都駅に7時30分に集まり、7時41分発の橿原神宮前行きに乗って終点で下車。2回の乗り換えを経て9時19分御所駅に着いた。シーズン中とあって葛城ロープウェイ前まで直行臨時バスが運行されていて待たずに乗り込む。ロープウェイ前は自家用車であふ



戻ってきた。聞けば櫛羅の滝より小さく2条に分かれているとのこと。しばらくは緩やかな登りが続くが、732mのピーク分岐あたりから急な階段となる。11時20分頃山頂コースとロープウェイ駅コースの分岐に出た。帰りのロープウェイの状況を確認すべく、予定を変更してロープウェイ駅へ向かう。下りは整理券の配布はなく、現在8分間隔でピストン輸送しているとの情報を入手して山頂に向かい、12時丁度山頂に到着した。大勢の人で賑わうなか恒例の記念撮影をし、本日期待のさつきを訪ねて国民宿舎前まで移動、満開のさつきを前に昼食とする。紺碧の空、緑の金剛山、真紅のさつきと見飽きることのない景色に後ろ髪を引かれながら、さつきを背景に2枚目の記念撮影を済ませて、12時40分下山のため早々にロープウェイ駅に戻ることにした。この時間では乗客はそれ程多くないが、それでも30分の待ち時間を要してロープウェイの最前面に陣取り下界の風景を楽しむ。山頂駅付近にはシャクナゲが群生しており、名残惜しげに咲いていた。帰りも御所駅行き直行の臨時バスに乗り、予定より1時間早く14時11分発の尺土行きで、朝のルートを逆に帰京した。

（下川 博司 記）

れ、ロープウェイは待ち時間1時間半で整理券を配っていた。駅前の喧騒を避け9時50分登山開始。程なくして北尾根コースとの分岐となり、われわれは左手くじらの滝コースをとる。予定より早く10分で櫛羅の滝についた。写真に収めて先に進む。本来ここから二の滝まで谷沿いの道をゆくのだが、数年前の奈良県の集中豪雨で土砂崩れがあり、通行不能となっていたが今は迂回路が整備されている。ロープウェイの下を通り階段の道を登り10時30分二の滝分岐に来た。宇野さんが二の滝の偵察に行き10分ほどで





## —第35回 例会—

年月日：平成26年6月13日（金）晴

行先：太閤道 若山（315.2m）、サントリー  
（京都ビール工場）見学

参加者：下川 和子、下川 博司、橋口 純男、  
倉原 政治、丸山 博、中村 正博  
宇野 久仁男、山岸 豊

阪急高槻駅に9時00分に集合しスタート。  
阪急電鉄高架線に沿って約1km京都方面に戻り、京都大学農場の中を通り抜け名神高速道路をくぐり登山口へ。昨日までの梅雨空がようやく抜け、晴れの日を手にした。09時45分金龍寺跡に至る参道を登って行く。十三丁の丁石を見て10時15分金龍寺跡に着いた。境内は結構広く、往時の隆盛を忍ばせる。境内の奥を左に進み、七重の石塔を左手にみて丸太の階段を登り、新緑の稜線を行くこと40分、10時55分若山の三角点に到着した。植林の中で山頂のイメージはない。早々に記念撮影を済ませ先に進む。しばらくして舗装道路に出、さらに行くに右に開けた場所がありベンチもある。時間は11時20分食事には少し早い、木津川・宇治川・桂川の合流点と男山の景観を真下に望みながら昼食休憩とする。11時55分出発、程なくして新大阪ゴルフクラブのフェンスに突き当たる。ここか

らはフェンス沿いに細い悪路をしばらく進む。ゴルフ場が終わるところを右に折れ、若山神社へ向かう急斜面を、道標に従いつづら折りの丸太階段を下って11時40分若山神社の境内にでた。このコースは人気があるようで、金曜日にもかかわらず意外と出会いがあった。ゆっくり休憩した後13時に神社の石段をくだり、若山団地に出たところで雨がぱらついてきた。全員折り畳み傘をだす。雨脚が強くなり高速道路の下でしばし雨宿りして櫻井の駅跡を探索、阪急水無瀬駅に13時50分到着し本日の歩行行程を終了した。ここからは第2部となり、西山天王山駅に電車で向かいサントリー京都ビール工場を見学。シャトルバスの時間まで間がありすぎるため2名を残し工場まで歩く。受付で合流して15時からの見学コースで、最新の生産ラインを見る。動画を除き写真撮影は自由。その後待望の試飲タイムとなり、プレミアムモルツのクリーミーな泡が乾いたのどを潤し、至福の時をあじわい乾杯の写真を撮る。16時22分発のシャトルバスに乗り、阪急西山天王山駅とJR長岡京駅に分かれそれぞれ帰宅の途に就いた。

（下川 博司 記）

## カメラクラブ

- OB会カメラクラブは、現在5人で、今回は各自、自信作を二枚ずつ投稿して頂きました。
- ・西尾 勝治さんは、海に関するもので、瞬間の素晴らしいショットですね。
  - ・萩原 孝一さんは、猫柳の新芽と二条城の冬の準備の様です。
  - ・笠川 重美さんは、コウノトリの郷公園（日本最後の生息地但馬地域・豊岡市）のものです。
  - ・山田 昌美さんは余呉湖の丹生（にう）神社で行われる茶碗祭りの山矛と花輪踊りで、ローカル色豊かなものです。
  - ・川越 幹さんのものは、現在修復中の姫路城で、全体が真っ白で「しろすぎ城」と揶揄されています。もう一つは、OB会の例会で、近江八幡の水郷巡りの風景です。

◎カメラクラブに入会したい方、写真に興味のある方は、OB会カメラクラブの川越 までご連絡下さい。

（川越 幹 記）

西尾 勝治さんの作品[明石海峡の夕日]





西尾 勝治さんの作品 [いかなご漁]

萩原 孝一さんの作品 [猫柳]



萩原 孝一さんの作品 [冬の行事 二条城庭園]



笠川 重美さんの作品 [こうのとりー仲睦まじく]



笠川 重美さんの作品 [こうのとりー飛翔]





山田 昌美さんの作品  
[余呉湖の丹生ー山矛（ヤマホコ）]

山田 昌美さんの作品 [余呉湖の丹生ー花笠踊り]



川越 幹さんの作品  
[白鷺城と赤い橋]

川越 幹さんの作品  
[OB会行事ー近江八幡水郷めぐり]



## 釣りクラブ

昨年は、あまり釣行に行けなかった堀場OB会釣りクラブ、久しぶりに平成26年7月18日（金）鯛・鯰・イカ釣りをメインに行ってきました。現在クラブ員は、13名、初心者も大歓迎です。次回は、9月19日を予定していますので参加希望の方は、声を掛けてください。クーラーだけでもOKです。参加者は、当初は、予定でした丸山・池田各氏が急な用件で参加できなくなり、山岸、村田、西田の3氏及び中村の4名と少し少ない参加となりました。漁船は、何回か使っています西舞鶴にある幸清丸です。当日の天候は、予報では、曇りのち雨となっていました。海では降られずすみ、釣りには、適した条件でした。朝9時30分に小生宅に集合し、丹波インターを降りて、国道27号線を北上し、ウスイの釣具店で餌等を購入、12時前に漁港に到着した。港に着いて間もなくお世話になる船長さんが来てくれ、釣り道具等を船に積み



込み、釣り座を決め、12時出船しました。波は、予報通り、終日穏やかでした。釣果は、全体で40cmクラスの鯛1匹、チャリコが10数匹、鯰は大鯰ばかりで約30匹、イカはまだ早いようで6匹、その他、ウマヅラハゲ・カイワレ・ハモ等が釣れました。流れが少し速かった為、お祭りが多く、釣果が良くなかったですが、楽しく釣ることができました。21時に納竿し、22時に帰港しました。久しぶりに疲れまし

（中村 正博 記）

## 東京支部ゴルフクラブ

第3回OB会東京支部ゴルフクラブ部  
コンペ開催

東京支部では平成26年5月30日（金）に第3回ゴルフクラブ部コンペを恒例の東京支部一泊旅行に併せて、静岡県伊豆国際カントリークラブにて開催しました。春霞みの晴天の中、背



景に富士山が写る場所で記念写真を撮って頂きましたが、残念ながら富士山は望むことが出来ませんでした。18ホール新バリア方式にて競技を行いゴルフを満喫してきました。伊豆国際CCの開場は昭和36年で、標高180メートルの高原でアコーディア・ゴルフの運営の手入れの行き

届いたゴルフ場で、乗用カートよりボールの確認がし易かった。コースとしてはフェアウェイは狭く、アンジェーションもあり、谷越えドッグレッグと変化に富んで、グリーンも狭かった。ローカルルールで白黒杭があり超えた場合は1ペナで出せて、プレー進行がスムーズに出来るようにできていた。東京ゴルフクラブ部は18期に設立され、第1回記念コンペを大日向カントリー倶楽部で、第2回目を鷹ゴルフ倶楽部で、18期3回目を予定通り開催することができました。OB会とゲストのグループに分け5名2組で、優勝、準優勝、ドラコン、ニアピンを競い、優勝は谷口氏（グロス83、HC10.8、NET72.2）、準優勝は新井となった。ドラコンはゲストの若手組で、ニアピンはOB組でした。

今シーズンは、4月に鷹ゴルフ開催後時期も近かったこともあり参加者の全員のスコアも比較的安定したスコアで回ることができました。かんぼの宿「修善寺」までクラブバスで送迎頂き、ロビーで表彰式を行い賞品を授与した。その後、観光組5名と合流し修善寺温泉で疲れを癒した。

参加者：（敬称略）

草鹿 悌二、谷口 義晴、新井 章生、  
下坂 利晴、北原裕康

（新井 章生 記）

## 囲碁クラブ

平成26年4月20日（日曜日）第7回日本棋院主催の寶酒造杯が開催され、約1000名近くの方が大会に参加されました。

この大会は、名人戦から15級の初心者まで、20歳以上の方であれば誰でも参加でき、各段・各級で優勝した場合は、全国大会に招待される囲碁ファンに取っては、大変しみな大会です。OB会の囲碁クラブが昨年11月に発足して初めてのイベントでしたが、残念ながら参加者は、東 信好（2段）さんと私、中村 正博（1級）の2名でした。開催場所は、京都産業会館の3階・4階で開催され、朝9時から夕方5時まで熱戦が繰り広げられました。勝敗は、東 信好（2段）が2勝3敗、中村 正博（1級）3勝2敗でした。



囲碁クラブでは、毎月1回第3木曜日の6時から8時まで堀場製作所囲碁クラブと一緒に練習をしています。初心者の方、これから始めようと思っっている方、是非一緒に囲碁をやりませんか。

（囲碁クラブ 世話人 中村 正博 記）

## OB会行事報告

### 春の懇親会

18期OB会春の懇親会が「がんこ 高瀬川二条苑」で4月5日12時より開催されました。春を感じる桜が咲き誇る高瀬川を歩いて、おもてなしを感じる「がんこ」に到着しました。



るのを感じました。そして、うれしいニュースとして内山さんより、トレックス・セミコンダクター(株)の株式上場のお話をいただきOB会会員が大変に活躍されているのを感じました。春を満喫した楽しい時間は大変に早く過ぎ、船越幹事より締めをいただきました。

今回、春の懇親会開催での参加された方へ初めてのアンケートを実施させていただき、開催場所、料理など六項目について設問させていただき、皆さん大変に満足していただいた結果となりました。コメント欄には、より多くの堀場OB会会員が参加されるようにとの記載もあり、幹事として今後の活動の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

（笠川 重美 記）

今回は東京から谷口さん、海野さんが参加され32名で開催となりました。酒井代表幹事の挨拶・乾杯にて宴会となりました。今回出席されなかった山下総務部長からの堀場グループの近況報告を中村正博さんより代読報告していただき、堀場製作所近況を披露していただきました。会場の雰囲気は大変に良かったのですが、みなさんの近況など、お話される活気と盛り上がりで狭く感じるほどでした。東京の近況など谷口さん、海野さんから披露いただき、堀場OB会も全国規模への幅広い活動となってい



## レジャー例会

背が伸びた稲の田園風景をJR近江八幡まで新快速で京都から約30分。草津で学生が降りれば、近江八幡で乗降する人は、地元の人か、観光客となる。駅からバスに乗って10分ほど豊年橋で降車。すぐに船着き場がありました。手漕ぎ屋形舟に分乗し、葦の間を水郷めぐりがスタートする。その昔、豊臣秀次が始めたと言う歴史のある舟遊び。西湖(風が強いと帰ってこられないこともあるらしい)に向かう水郷を船頭さんの説明を聞き、すき焼きを食べながらゆっくりと進んで行く。梅雨の



晴れ間にお照りがきつくもなく水郷巡りにはいい日和でした。ビールの酔い、水郷をわたる心地よい風、鶯の鳴き声を聞きながら2時間。過去の栄光の話やら、トラブル対応に走った日々話。サッカーW杯日本対ギリシャ戦(当日朝、残念ながら0-0の引分)に話が及ぶと、実績がでない選手の処遇など、さすが、マネジメントの達人達の談論風発?!。すき焼きと手漕ぎ舟に満足し、もと来た乗り場に戻る2時間だった。

(笠川 重美 記)

## 研修会 京都新聞社見学会

OB会研修会の一環として、2014年5月30日(金)に、京都新聞社の見学を行いました。京都新聞社は1879年(明治12年)6月9日に京都商事迅報(はやぶれ)として創刊されました。その後「京都日出新聞」を経て1942年(昭和17年)に現在の京都新聞になりました。京都商事迅報が創刊され、今年で135年目になります。読売新聞が1874年、朝日新聞が1879年創刊であるのを見るとほぼ同じ程度の歴史があることがわかります。また京都本社以外に滋賀本社、大阪支社など総勢500名の人員で構成されています。以前は1500人程だったのが1/3に人員が減っている。これは機械化、PC化の威力が大きく、特に、以前は「文選」(活字を拾うこと;その作業自体に専門的能力が要求されていた)という職人が多数必要であったのが、いらなくなったことが大きい。

見学の内容は記念撮影、ビデオ学習、そして社内見学、質疑応答という形で進められました。見学者ルームでビデオ放映があり、印刷の変遷の説明がありました。鉛の活字から、今は平板オフセット印刷に代わっていること。カラー印刷が3

原色を合成することにより実現していることの説明がありました。社内見学は、印刷工場、発送室、編集局の見学を行いました。印刷工場では輪転機の説明が行われ、印刷能力は1時間に20万部。印刷に使うロールの長さ1巻き12kmを100本。など高性能な機械に圧倒されていました。見学の際、輪転機の前でスタッフが質問攻めとなり、対応している間に梱包作業がすでに済んでしまい、急遽サンプルの梱包を流してもらうというハプニングもありました。また技術的な質問も多く、スタッフが応えられない場面もありました。京都新聞社の事業としては、駅伝、サンガ、コンサートなど数々のイベントが行われています。帰りに、全員の写真を入れた、堀場OB会見学会記念号の特別紙面、本日の夕刊の刷りたてのものをいただきました。また次の日(5/31)の朝刊に写真が掲載されました。特別紙面の記事中には皆さんが見たこと感じたことを、さすがプロと思われる文章で記載され、読者をひきつけるとはこういうことなのだと感じました。

日頃から堀場内では社外報告書や実験報告書など文章力が試されている毎日ですが、非常に参考になりました。総勢18名の参加でした。

(三橋 泰夫 記)

# ようこそ京都新聞社へ

## 堀場製作所OB会の皆さん来訪



堀場製作所OB会の皆さんが30日午後、京都新聞社を訪れました。一行は記念撮影の後、編集局や輪転工場など、新聞づくりの現場を熱心に見て回りました。

見学者ルームにて「京都新聞ができるまで」のDVDで取材や編集のポイント、印刷された新聞が販売所から各家庭に届けられるまでの様子をご覧した後、高速オフセット輪転機、自動化された発送設備や編集局などの各現場を見学。執筆・送稿から印刷、発送までコンピュータ化が進んでいる現状や最新の電子編集システムなどについての理解を深めました。また京都新聞の発行部数や従業員数、支社・支局数、販売所数などの説明も受けました。資料展示コーナーでは、有名作家からアクセスで送られ



### 新聞ができるまでを学ぶ

てきた直筆の原稿や、鉛の活字を入れたガラ、新聞配達で使った子リンチン(鉛)やハッピーなどを見学し、時代の流れを知ることができました。

京都新聞は、創刊百三十五年を迎えました。戦中の一時期を除き、明治、大正、昭和、平成の時代を京都、滋賀の読者とともに歩んできました。京都は千二百年を誇る歴史と伝統を誇り、学術・文化、観光の中心地としても世界の注目を集めています。本紙は、その京都を発行拠点にしており、グローバルな視野をもとに新聞づくりを行う一方、地方紙として地域の生活に密着したキメ細かなニュースも取り上げています。新聞製作は時代とともに大きく変わってきました。鉛活字を手で拾って版をつくり、印刷していた時代から、コンピュータを使って新聞を編集するシステムに移るなど、正確で美しい新聞をより速くつくれる時代になりました。三二ス原稿も、記者が手書きしていたものが今や離れた場所からパソコンに入力し、通信回線を経て本社の端末に送信されるようになりました。京都新聞社は、新聞発行以外にもスポーツ・文化・芸術などのイベントに取り組んでいます。スポーツイベントでは、女子陸上界に大きく貢献している都道府県対抗女子駅伝競走大会、少年野球、少年サッカーなども、また、数々の観覧会やコンサートも催しています。さらに毎秋、各分野で功績のあった方々

### 読者ととともに歩む

#### さまざまな情報を発信



を表彰する「京都新聞大賞」は、すっかり定着しましたし、福祉の分野でも奨励金を出したり、表彰を行っています。マルチメディア時代に対応して、京都新聞社はさまざまな形で情報を発信しています。KBS京都やM京都、みやびじよんなどの放送局、街かどの「電光三二ス」にも、京都新聞の三二スが流れています。また、グルメから歴史まで、幅広い内容の出版物を発行しており、京都という地の利を生かし、全国にファンを広げています。インターネットにもホームページを開設し、京都や滋賀の情報を発信、国内だけでなく国外からも、たくさんの方々がアクセスがあります。

▲Hello! Do you have any news? 英語のあいさつ表現のひとつです。久しぶりに合った友人同士が、やあ、変わりはないかい(直訳すれば、何かは新しいはありますか)と交わす言葉です。そうすると、ニュース(NEWS)の原点は、私たちの身の周りでの変化なのです。▼本日は、京都新聞社の見学に足を運んでいただき、ありがとうございます。短い時間でしたが、毎日の新鮮なニュースをみなさんにお届けする仕組みをご理解いただけましたか?▼もっと賑々しい新聞づくりの現場を想像されていたのではありませんか。締め切り時間をにらみながらの大海戦、かつてはそんな新聞製作でした。▼新聞づくりを変えたのは、確かにコンピュータの力です。作業は高速化され、より新しいニュースを皆さんの家庭に届けることを可能にしました。しかし、今も変わらないのは、京都新聞が京都と滋賀という地域に根ざし、住民の視点でさまざまな問題を見つめ続け、読者とともに考える姿勢です。▼人々の「活字離れ」が指摘されます。本を読まない、新聞を読まない。特に、若い世代の文字離れは深刻です。私たちは残念で仕方ありません。▼朝夕に家庭にお届けする新聞は、記事も広告も、すべて私たちが皆さんに伝えたい最新の情報です。世界のこと、日本のこと、文化、芸術、科学、スポーツ...。その日のとっておきの話題を詰め込んでいるのです。▼文字を読むことから、考えることが始まります。新聞の片すみに、世界の変化の第一歩が見つかります。さあ、私たちが一緒に、ニュースを探し出す旅に出かけましょう。



発行所 〒601-8577  
京都市中京区烏丸通北河上ル

京都新聞社  
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.

http://www.kyoto-sh.co.jp/  
(075) 241-5430  
(075) 241-5421

京都新聞トマト倶楽部

#### 新聞豆知識

発行部数… 朝刊約50万部  
夕刊約30万部  
計 約80万部

本社で働く人の数は

…約510人

支局で働く人の数は

…約90人

販売所数………244カ所

(京都府185、滋賀県59)

新聞を印刷する用紙

長さ…約12km

重さ…約855kg

使用量…1日約120本

輪転機の印刷能力

…1時間に約13万部

## 東京支部 一泊旅行

天候に恵まれた5月30日（金）～5月31日（土）東京支部は、修善寺で一泊懇親会を開催した。初日は草鹿氏、谷口氏、新井氏、ゲストの下坂氏、北原氏が、「伊豆国際カントリークラブ」でゴルフを楽しんだ後、土屋氏、玉置氏、大道寺氏、海野と新会員の北村氏が「かんぼの宿修善寺」で合流。総勢10名、アルカリ単純泉で露天風呂付き大浴場に入浴後、小宴会場で新鮮な伊豆の海産物の会席料理で夕食。その後、まだ飲み足りない者が幹事部屋に集り、杯を片手に、夜遅くまで語り合った後、就寝。

翌日は近くにある「虹の郷」を観光。敷地面積は約50万平方メートルで、ほぼ東京ディズニーランドと同じ広さ。イギリス村、カナダ村、フェアリーガーデン、日本庭園、匠の村などの施設や庭園があり、年配者でも綺麗に剪定された木々の中を散策しながら楽しめるテーマパーク。

ちょうどバラが満開の時期で、色とりどりの各種バラの花で初夏の伊豆を満喫。その後、修善寺駅まで路線バスで移動し、駅前のそば処で昼食後解散。各自帰路に就いた。

（海野興一郎 記）



## 会員寄稿文

京都の知ってるつもり「京都の夏 新鮮な海魚は鱧しかなかった」

海野 興一郎

京都の寿司と言えば、鯖寿司。鯖と言えば、鯖街道。冷蔵・冷凍・物流が発達する前、若狭で獲れた鯖に塩を振り、京都まで背中に担ぎ、行商していた。その道を後の世で「鯖街道」と呼ぶようになった。鯖街道は福井県小浜から堀場の研修所がある朽木、さらに大原を抜けて出町柳に至るルート(約76km)のほか、4ルート程あったようだ。運ばれた魚は、「さば」のほかに「かれい」「ぐじ(甘鯛)」があり、全て一塩された魚で、これらは「若狭もの」と言われ重宝された。

一方、瀬戸内の魚は、明石や淡路島から「担ぎ」と言う行商人が、魚を運んでいた。夏になると、京都に着いた頃には、鮮度が落ちて売り物にならない。ここでも天日干しや塩物しか持って来られなかったと思われる。京都は海に面していないため、新鮮な海魚が入らず、鮮魚と言えば、昔から鯉を始めとする川魚が主流であった。しかし鱧(はも)は違っていた。生命力が強く、瀬戸内で獲れた鱧は、京都に着いても生きていたのである。

ところが三枚に下ろしても小骨が多く、煮ても焼いても食べられる代物ではなかった。そこで、一説によると、中津藩(現：大分県)に隣接する日田に招かれていた京都の料理人が、移動の途中、中津の漁師から「骨切り」の技術を教えられたと言われている。さらに、「骨切り」の技術は、中津藩の漢方医の画家で料理研究家の田中田信(たなか でんしん1748～1824年)が考案したとも言われている。その後、京都では技術の習得と伝承と共に広まり、さらに生命力の強い鱧を食べると精が付くと言われ、京都人は好んで食し、鱧料理へと発展していった。

ここにエピソードがある。行商人が鱧を運んでいく途中、峠で休憩している間に鱧が逃げ出した。その後、村人が土まみれの生きた鱧を見つけ、「京都の山には鱧がいる」と噂になった。それ程生命力の強い魚である。

話は変わるが、祇園祭は7月1日から約1ヶ月間の祭りである。この時期の鱧は脂が乗り、最も美味しくなり、鉾町関係者は毎日の様に食し



たことから、「鱧祭り」とも言われている。鱧は、「骨切り」をすれば、湯引き（落とし）や蒲焼、お吸物など、家庭でも料亭でも一品料理として出され、京都人は「夏はやっぱり鱧が一番美味しい」とよく言う。しかし正直、鱧の味は淡白で、それだけで特に甘みのある魚ではない。出汁や添え物で味わう魚である。

京都の魚屋やスーパーでは、湯引きや蒲焼にして売っているのが当たり前で、生活に密着した食材である。ところが東京では、冷蔵・物流が発達した現在でも、大手デパートや高級料亭でしかなく、決して生活に密着した食材とは言えない。関東の消費量は関西の十分の一。これは、東日本では鱧が獲れないからであろうか。いや、それを考える前に「京都の夏 新鮮な海魚は鱧しかなかった」と言う方が的確ではないか。海に近い所では、昔から季節に応じて、もっと新鮮で、もっと美味しい海魚が、もっと安く得られ



《鱧の湯引き》

ただけではないか。私、今春で東京に来て38年目だが、来た当初からこちらの新鮮な海魚や、さらに仕事で行く北海道、日本海側の新潟、太平洋側の福島・茨城で地元的新鲜な海魚を食べると、価格が安いというにその美味しさにつくづく想うことである。

以上

## ボランティア考(2)

梶並強平

今後、益々少子高齢化が進んで行き、高齢者の方だけで、孤独や不安を抱えて、不自由な生活を余儀なくされている方が増えて来ている。つまり、介護保険により身体的なものについては、十分でないにしろ、かなりの介護が受けられるようになって来ているが、身の回りのことで一寸した事でもお年寄にとっては、不自由なことが発生することが多々ある。

具体的には、戸の開け閉めがガタピシャして、しまりが悪いとか、この廊下到手摺があると、大変安全で便利になるだとか、最近物干し竿が高く感じられる様になって、洗濯物が干しづらく、もう少し物干し竿を低くしたいとか、最近、家の中が湿っぽくなって困っている。と言う事で色々調べてあげて見ると、お風呂の換気扇が故障をしており、この為にお風呂の湯気が部屋の中に充満して来ているとか。この他にもお年よりは、心の癒しも求めており、お年寄

りだけで生活をしていると、不便さや寂しさを感じ、身の回りにはやってほしい事が山ほど起こっている筈である。

大部分のお年よりは、今までの様な収入はなくなり、年金だけが頼りの生活になって来ており、生活をして行く上で多少不便であっても、お金がかかる事は、我慢をしようと言う様な事をされており、生活に不自由さを感じながらも過ごされている人が多いのが現状です。お年寄りが心身ともに元気に充実した生活をして行くには、介護保険の範囲内だけでは十分でなく、そこで私達老人の出番にもなっている。私は何一つ取柄はないが、日曜大工的な事については、子供の頃から大好きで、嫁さんの協力もあり、今ではこれが私の土日のライフワークになって来つつある。デーサービスセンターのお手伝いや老人ホームへの訪問の他にもお年寄りの家で今迄ボランティアでやって来た日曜大工

的な作業を思い出すまま列挙すると、風呂や廊下や便所等の手すりの取り付け。水道蛇口の修理。網戸の張替え。蛍光灯の取替え。防鳥（鳩）ネットの取り付け。棚の取り付け。物干し竿の調整。地デジテレビのアンテナの取り付け。蛍光灯器具の取替え。お話相手。お抹茶のお点前の出前。カーテンレールとカーテンの取り付け。腕時計の電池交換。エアコンのアース取り付け。お風呂の換気扇の修理。便所の換気扇の修理。インターホンの電池式よりAC100V電源に改造。お風呂の蛇口の警報取り付け。自転車のパンク直し。自転車のブレーキの修理。包丁どぎ。物品購入。病院同行。郵便局同行。電話機の移設。障子紙張り。通路の段差をなくする。玄関の鍵修理。外門の鍵修理。庭の植木の剪定。庭の草引き。簾の取り付け。ベランダのプランタンに花植え。その他、内職の斡旋。などこれ等の作業は、一度お手伝いをすると、口コミで個人的に依頼をして来るケースが多く、これ等の場合、工賃は無論無料、材料費のほとんどは無料で行ってあげている。又これとは別に、自分の得意な分野を社会福祉協議会に登録しておく、このボランティア活動の部門より、何日何時、何処何処の家に、何々の作業で訪問をする様にと、指示が来るので、この指示に従って作業にお伺いする事になる。

この場合は、1~2時間の作業時間で、300円の有償作業になり、依頼をする方は、材料費とも有償なのだが頼み易いとか言われており、この300円の収入は会の運営費に当てられる事になっている。

この他、マージャン、囲碁、将棋、本の朗読等々の依頼があるが、あまり得意でないのと、最近高所での作業は危険を感じる様になってきたので、これらの作業はお断りさせてもらい、もう少し若い方にやってもらっている。

このように、作業内容は至って簡単な内容であり、皆さんもそれぞれに色々な趣味や技術をお持ちになっておられるので、この趣味を趣味と言う殻の中に閉じ込めて終わらせてしまうのではなく、元気な高齢者の方は趣味を生かして、このパワーを使わない手は無いと思っている。世の中にはびっくりするくらいの仕事や職業の種類があるが、人の為に本当に役立ったと実感出来る仕事は、めったに無いが、ボランティア活動はその一つと思う。

世の為、人の為にこれを役立たせる事により、お年寄りから感謝や喜びを表して貰うと、こちらもこの上もない喜びや生きがいを感じさせられ、元気も貰える筈である。

「人ノ喜ビヲモッテ 我ガ喜ビトナス」

以上

## ボケ防止のために

## 梶並強平

人間、誰しも歳をとると物忘れがひどくなり、えーとなんだったかなアーとか、ここに何をしに来たのかわからないような事がよくあり、最近特に物忘れが激しくなり、つれて体力が衰えるばかりか、感受性も悪くなってきており、段々と落ち込む方向に行きつつあるのを感じている。今、経済的には、幸いにして年金と言うものがあり、住む所さえあれば食べ物、着る物も安いので皆さんは、かなり好き勝手な事が出来るはずである。子供がいた家庭でも、今はそれが独立して、ご主人も奥様も、かなりの時間の余裕があるはずである。しかし第三の人生をダメになってしまう人のパターンの一つとして、時間は十分にあるのだが、何をやるにも億劫になり、特に外出をするのも段々面倒になって来ると、その症状の現われでもあり、これで一番嫁さんが被害を受けることになる。

屋内活動では、絵を描きたい、文章を書きたい、社交ダンスもしたい、何かを極めたい、屋外では、園芸をやってみたい、なにかスポーツをやってみたい、山登りをしたい、釣りをした

い、旅行もしたい等々、これまで一寸しかやる暇が無かったけれども、是非この機会に積極的にやってみようと言う気が起こるはずである。又歳を取るほどに義務でやらなければならない事も少なくなって来る。若い頃、働きながら一家を構え子供を育てながら、忙しい時を過ごして来た訳で、第三の人生を迎えた時、今迄やれなかった事を見つけて、それを実現して行く喜びを追う事が出来るはずである。

何もする事が無いと言う方は、覚醒してないだけの事で、まだ残された可能性があるはず。そもそも人間と言うものは、そんなに何もせずには何も考える事もなしに過ごせるものではない。何かやりたい事があれば、積極的に色々な事をまずやってみる必要がある。そうする事により、新しい自分に出会える事にもなる。そうでないと、家でブラブラしていると嫁さんが可愛そうである。私も80才にもなるが、物忘れが激しくなり、又ボケない事が大変重要な事になると思っている。だだ何もしないとボケてしまっただけは大変で、嫁さんに会って“どなたさん

ですか”と言うことになったら終わりですから、これ以上ボケない様に、我なりに脳トレをひそかにやっている。

今迄は、嫁さんから近くのスーパーで洗剤、醤油、肉、卵、果物等々一度に5~6品目のお使いを言いつけられることがあるが、メモをしてない限り1~2品目は必ず買い忘れており、折角買って帰った品物も銘柄、サイズ、産地、数量等必ず間違っている。嫁さんからは一寸も役に立たないと馬鹿にされ、きつく叱られていた。そこで、約半年くらい前からこれ以上記憶力が落ちない様にと、自分なりの脳トレをやっている。

これはNHKのテレビ番組でボケない方法を紹介されたもので、大変簡単な方法ですが、歩きながら数を暗算で加減することです。最初は、108から3ずつ暗算で引き算をして計算、つまり108の次は105→102→99とゼロになるまで計算。(ゼロにならなければ、途中の計算が間違っている事になるが、計算が間違っても脳トレにはなる) 今度は逆に3を加算して0→3→6

→9と言う具合に108迄暗算で、歩く歩調に合わせてリズムカルに計算を繰り返す方法です。

(最近では、歯磨きをしながらやっています) 最初の内は、計算がスムーズに出来ないが、その内に、歩くリズムにあわせて暗算がスムーズに出来るようになって来る、時には4とか7を加減するとか。しかし交通事故にはくれぐれもご注意ください。

この結果、記憶力もアップして、お使いを頼まれても100%間違いなく出来る様になって来た。しかし嫁さんからは、何故かお褒めの言葉は何もない。

この様にもともと記憶力の低下とボケを防ごうと思ってやり始めてみたが、まさかこの歳になっても脳が鍛えられ記憶力の低下防止どころか、益々記憶力が向上させる所まで行くとは思っていなかった。

老化をネガティブに捉えるのではなく、変化に対してポジティブに対応する事が必要かと思われる。

以上

## 平成25年度京都府スポーツ賞受賞報告

村瀬 潤

平成25年度京都府スポーツ賞を受賞しましたので、報告いたします。去る平成26年2月27日(木)京都テルサホールにて京都府スポーツ賞表彰式が執り行われ、京都府知事・山田啓二殿から表彰していただきました。翌日の京都新聞朝刊の21面にも、写真付きで記事が掲載されています。

京都府スポーツ賞は、京都府のスポーツ振興を目的に昭和56年から設けられています。京都府のスポーツ振興に貢献した個人と団体、及び優秀な成績を達成した個人と団体(チーム)が対象です。

因みに、私はマスターズ部門で表彰されました。マスターズ部門の選考基準は、『日本マスターズ大会で優勝』、或いは『国際マスターズ大会で3位以内に入賞』です。過去の

日本マスターズ水泳大会で2位は3回ありますが優勝は無く、これまで受賞できませんでしたが、昨年(平成25年)10月に京都西京極スポーツセンターで行われた国際ゴールドマスターズ大会の水泳競技に出場し、60~64オクラス50m背

泳で優勝、200m平泳にて3位、男子メドレーリレーにて2位の成績を残すことが出来、受賞できました。昨年は64歳で年齢的には不利な条件でしたが、地元京都で開催されたチャンスを生かすことが出来ました。

今回の受賞者は、スポーツ振興に尽くしたとして京都野球協会名誉顧問：小林祥一様をはじめ32名と1団体。優秀な成績を残した競技者として294名と30団体(チーム)でした。世界陸上マラソン3位の福土加代子選手や100mで10.01秒を記録した桐生祥秀選手も、もちろん受賞しています。

山田啓二知事の祝辞では、2020年の東京オリンピックでの今回受賞者が活躍することへの期待と共に、2021年に関西連合が誘致したワールドマスターズ

ゲームズでのマスターズ賞受賞者の活躍への期待が述べられました。日本人の平均寿命は延びていますが、介護の必要な老人の増加と医療費の増加が問題になっています。介護が必要なく医療費が安く済む健康な老人を増やすことが課題になって



おり、知事はマスターズ競技者を通じて、元気な老人の増加を期待していると思います。マスターズ部門は追加創設から未だ5年目ですが、本年度は100名を超える受賞者が居て、京都府では元気な老人が順調に増加しています。

スポーツ賞では賞状と共に副賞としてトロフィーも付いています。プラスチックだと軽い

のですが、重さが1kgの金属でした。思いがけず京都府スポーツ賞を戴き、椎間板ヘルニアを持病に持つ身ですが、無理をしないで運動を長く継続し、寝たきりにならない健康な老人を続けたいと思っています。

以上



## OB会だより

### － 堀場OB会ホームページ紹介 －

堀場OB会のホームページはクラブ活動をはじめ各種の行事案内、活動報告を掲載しています。より魅力あるホームページにするために会員からのご意見、ご提案をお寄せ下さい。

#### ◆ホームページアドレス

<http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor/>

#### ◆堀場OB会メールアドレス

[horiba.ob@gmail.com](mailto:horiba.ob@gmail.com)

会員にお届けしている会報は、モノクロ版ですが、

ホームページにはカラー版の会報を掲載していますのでご覧下さい。

ホームページの会報閲覧は個人情報保護のため会員以外の方が閲覧出来ないようにパスワードで保護しています。閲覧は、トップページの「会報」ボタンをクリックするとパスワード入力の画面が表示されますので、下記のパスワードを入力していただくと会報のリスト画面に変わります。

◆会報閲覧パスワード horibaob

### － 新入会員紹介 －

平成25年10月以降に入会された会員を紹介します。（敬称略）

会員番号 1801－永井 博、 1802－佐藤 治、1803－鳥島 義則、1804－鈴鹿 周正  
1805－新井 修、 1806－路 一夫、1807－長沢 克己、1808－河端 保芳  
1809－北村 忠夫、1810－伊藤 哲

### － 訃 報 －

平成26年6月会員の岩田 市利様（会員番号0108）が亡くなりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

合掌

---

## — 年間行事計画について —

第18期の年間OB会行事についてはホームページに「年間行事予定表」を公開していますが、会員の皆様に参加いただく行事を紹介しませ

- 鴨川を美しくする会
  - ・ 鴨川クリーンハイク(年間5～6回の予定)
  - ・ 鴨川茶店(4月12日、13日済)
  - ・ 鴨川納涼(8月2日、3日の予定)
- 工房学習支援(年間:7～8回の予定)
- 一泊(日帰り)旅行(2月21日～22日済)

- 夏の懇親会(8月30日予定)
- 春の懇親会(4月5日済)
- レジャー例会(4月、6月、11月の予定)

開催日が決定した行事についてはホームページまたはメールにて紹介させていただきますので

参加いただくようお願い致します。行事内容の詳細は、代表幹事・幹事にお問合せ下さい。

◆代表幹事 酒井 俊英

E.Mail:sakai727@yahoo.co.jp

---

## — 会報・ホームページへの寄稿要領について —

会報への寄稿文、ホームページへのクラブ動、ボランティア活動等の諸活動報告をされる場合に長文では取扱いに苦慮する場合があります。

このため、文字数の上限を下記の通り取決めさせていただきますので協力いただくようお願い致します。

### ◆会報へ寄稿文

1500文字以内

(写真を1枚～2枚添付して下さい)

### ◆ホームページへの活動報告

800文字以内

(写真を1枚～2枚添付して下さい)

会報、ホームページ共に文字だけでは読者に伝える力が弱く、写真によって情景を読者に印象付けるものであり、必ず写真を添付いただくようお願い致します。

活動報告は行事終了後、直ちに報告いただくようお願い致します。

### ◆寄稿文の募集

会報に掲載する寄稿文を募集しています。

テーマは特に定めていません。

<旅行の感想>、<地域での活動>、<地域の社寺仏閣の紹介>、<地域の祭り>など身近なテーマを気軽に寄稿いただきますようお願い致します。

投稿者にはささやかながら「図書カード」

(1,000円分)を進呈させていただきます。

会報は毎年1月と7月に発行しますので12月末、6月末を目途に提出いただくようお願い致します。

### ◆著作権について

・書籍から引用の時は出典を明記して下さい。

(発行元、書籍名、著者)

・新聞からの文面、写真の引用は新聞社の承認を必ず得て下さい。

### ◆送付先

編集責任者 〒617-0824

長岡京市天神3丁目21-15 酒井 俊英

メールアドレス sakai727@yahoo.co.jp

携帯電話 090-5965-0389

---

## — OB会入会手続きについて —

OB会未加入の方が入会を希望される時は、入会申込書をOB会に提出していただき、入会承認の後、入会費、年会費を納入していただき、正式なOB会員として登録される手順となります。

従来、入会手続きは、入会希望者の声を聞いて

たOB会員が、代表幹事にその旨を伝え、入会申込書等を入会希望者に手渡し(郵送)していましたが、この度、OB会ホームページより「入会申込書」をダウンロード出来るようになりました。

(次頁を御覧ください)

---

## ■OB会入会手続きの手順

- ①「入会登録書」「入会のお誘い」をダウンロードする。
- ②「入会登録書」に必要事項を記入し、メール添付または郵送にてOB会幹事に提出する。
- ③幹事会審査の後、入会金、年会費納入の振込用紙、OB会資料を入会希望者宛に送付する。
- ④入会希望者は振込用紙にて郵便局より振込。  
(手続き完了)

### 【OB会員の皆様へ】

皆様の周辺で、未加入の退職者がおられましたら、入会の勧誘をぜひお願いします。  
堀場OBホームページトップページの「OB会入

会手続き」のアイコンから入会申込書をダウンロードし、「入会のお誘い」に記載されている手順で手続きを行うよう積極的に案内をお願い致します。解らない場合には、代表幹事・幹事にお問い合わせ下さい。

代表幹事 酒井 俊英

(sakai727@yahoo.co.jp)

副代表幹事 船越 健

(funakoshi@ksvu.or.jp)

幹事 森山 晶成、中村 正博、中村 十規人

(akishige.moriyama@horiba.com)

(masahiro.nakamura@horiba.com)

(n4f5zpjv@zd.ztv.ne.jp)

東京支部幹事 谷口 義晴

(tanigucti.y.k@hb.tp1.jp)

会計幹事 笠川 重美

(shigemi.kasagawa@horiba.com)

会計監査 湯浅 一郎

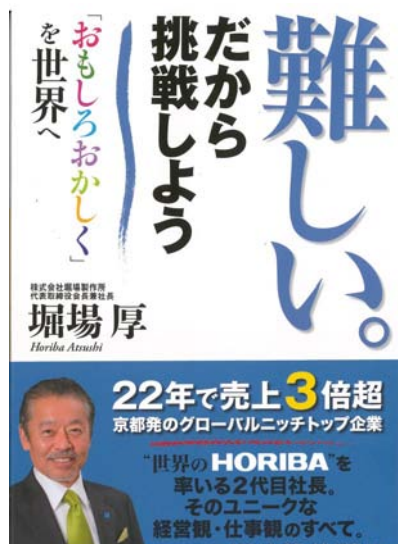
(yuasayuasa@yahoo.co.jp)

## ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

2014年7月社内報Joy&Funから

写真① (右の写真)

ホリさんが Richard, J. Bolte 賞を受賞  
2014年5月15日、米国フィラデルフィアのChemical Heritage Foundationにて、Richard, J. Bolte 賞の授賞式典が執り行われました。この賞は、化学及び分子科学に関わる産業において、製品供給やサービスで、世界的に顕著な貢献が認められた指導者に贈られるもの。



写真②ホリさん最新刊著書

PHP文庫「難しい。だから挑戦しよう」

2014年6月発刊



(2016年6月社内報Joy&Funより)

◎特集「One Companyの10年を経て更なる事業の成長へ」齊藤寿一副社長

2004年「HORIBA Group is One Company」宣言に基づいてOne Company経営がスタート、10年間のOne Company活動の報告があった。

◇「社名変更、ブランドの統一」 2004年よりグループ各社の社名変更が行われ、ロゴマークも統一したデザインに改められた。

◇「マトリックス経営」 2004年より縦軸に5つのセグメント、横軸にグループ会社を地域別に再編。

◇「会計年度統一、GEO(SAPシステム)始動」 2006年より会計年度を12月末に統一。2007年よりGEO始動。

◇「シェアドサービス導入」 2008年より米国、2010年より日本、2012年より英国で、間接部門でのシェアドサービス本格開始。

今後、「地域再編・拠点整備」日本、米国、英国などでOne Company経営を加速する組織を再編。BIWAKO E-HARBORをはじめとした日本の京都・滋賀地域の再整備が行われ、2016年新MLMAPがスタートする。

写真③ (左) アダチさんがSAE(Society of Automotive Engineers 米国自動車技術会)フェローに就任。2006年にイシさんが選任されて以来のHORIBAから選出されました。



写真④HIC本社 新社屋オープン

◎「HORIBA米国40周年 HIC本社・HBR新試薬工場オープン」(写真④上)

ホリバ・インスツルメンツ社 堀場 弾社長誕生から40年を祝して、6月13日ホリバ・インターナショナル社新本社ビル開所式及び米国40周年セレモニーが開催され、また、2014年3月 ブラジル・サンパウロ近郊に開設した、ホリバ・ブラジル社(HBR)の開所式が6月18日に執り行われました。

特に、ブラジルにおいては引き続き積極的な投資を行い、ビジネス拡大と南米でのHORIBAのプレゼンス向上に取り組んでいる。

(伊藤 哲 記)

## 編集後記

この第36号堀場製作所OB会会報誌が皆様のお手許に届く頃は8月上旬と思いますが、最近の国際ニュースではマレーシア航空の旅客機がウクライナ東部上空で、事もあろうに撃墜されたというニュースで持ちきりです。以前にロシアに関わったものとしては些か、残念でなりません。ロシアと言う国の性格を顔に見せつけられた様な気がします。HORIBAグループの社員が世界を飛び回っている中で、そのような事件に会わないことを祈るばかりです。

さて、OB会の皆様、今年の夏も一段と暑く

なっていますが、この会報誌が届く頃に合わせて「残暑お見舞い申し上げます。」と申し上げます。どうか、暑さ対策を充分されまして、体の養生に気配り頂き、健康第一で、暑さを凌いで夏を乗切って頂きますよう。そして8月30日の「夏の懇親会」に是非、お会い申し上げたいと思います。昨今の異常気象の原因が地球温暖化が原因であれば、子供たちには、28℃までは冷房のスイッチも我慢しましょうと言いながら、お年寄りには特別とお願いしても良いと思います。夢々、熱中症等には絶対ならない様。

(編集者代表)

\*\*\*\*\*  
\* 堀場製作所OB会 \*  
\* 〒601-8510 \*  
\* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 \*  
\* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 \*  
\* URL <http://wwwh5.dion.ne.jp/~ob-hor> \*  
\*\*\*\*\*